

令和 7 年 3 月 1 8 日

矢巾町議会議長 廣 田 清 実 様

教育民生常任委員会委員長 小 川 文 子

教育民生常任委員会活動報告書

本委員会は、令和5年度及び令和6年度の所管事務について、下記のとおり調査を終了したので報告します。

記

- 1 令和5年度・令和6年度活動テーマ
子どもから高齢者までしあわせに生きる環境整備

- 2 調査結果 別紙のとおり

教育民生常任委員会活動報告

令和5・6年度の活動総括

- 1 活動テーマ 「子どもから高齢者までしあわせに生きる環境整備」
- 2 調査課題 (1) 教育機関の実態調査
(2) 子どもの居場所づくりについて
(3) 小中一貫教育について

そのほか委員会で提案された「部活動の地域移行」「自殺対策」「高齢者の居場所づくり」「スポーツ（パラスポーツ）など親しめる環境整備」「スポーツ施設整備」「夜間中学校」については、期間内に調査着手に至らなかった。

3 2年間の活動の振り返り

令和5年度は、兵庫県相生市における「子育て応援施策」について、大阪府門真市における「子どもの貧困対策事業」について、奈良県葛城市における「AIを活用した相談システムの構築」についてなど、管外先進地視察を中心に所管事務調査を実施した。

令和6年度は、町内保育園2か所及び前年度に引き続き町立小中学校を訪問し現状を確認した。また、町内における子ども食堂について、ここかむ食堂の運営状況等について実情を把握するとともに、小中一貫校の県内の先進地である大槌町立大槌学園の視察を実施した。

(1) 活動全体を振り返った際の良かった点

所管課の事業実施状況・重点項目について、具体的な進捗状況や成果が詳しく確認でき、委員会活動の関わりについても理解できた。

視察研修においては、町内保育所及び町内全小中学校を訪問できたこと、また子育て支援の先進地である各地の現場を実際に目で見て声を聴くことにより、その大切さを実感するとともに、町の課題なども把握でき今後の町政への提言等に役立てることができた。

請願審査については、ヒアリング後の委員間審議も活発に行われ、矢巾町の教育行政の在り方についても議論ができた。

全体的に、議員全員で視察・研修の目的を決定し、当町においてどのような課題があり、どのような部分を取り入れることができるのかなど議論しながら活動を行うことができた。

(2) 活動全体を振り返った際の反省点

子ども子育て支援や学校教育に重点を置いたため、高齢者の見守りや生きがいづくり・社会福祉・歴史文化遺産保存等、他の分野への取り組みができなかった。課題を絞って計画的に進める必要性があった。

また、予算決算常任委員会などの前に委員会を開催し、委員会としてどの部分を重点的に審査するのかなどを話し合う必要性を感じた。さらに、テーマを元にした町民との懇談会などを開催していく必要性があると感じた。

4 町への要望及び提言について

(1) 町内保育園事業について

- ①町として小規模保育園の課題や状況等を把握し、情報提供や保育園長会議等への参加などの連携を検討されたい。
- ②町として保育士・看護師の人手不足の解消に積極的に取り組まれたい。

(2) 町立小中学校について

- ①児童生徒の安全な学習環境の確保と豊かな学びを保証するため、関係機関で連携を深めるよう努められたい。
- ②発達障害やそれぞれの子どもたちの特性に対応するための教室の確保及び体制づくりについて検討されたい。
- ③教職員の健全な労務環境を確保されたい。
- ④部活動の地域移行などにより生徒の望む種目や活動ができるよう努められたい。

(3) 子どもの貧困対策事業について

- ①支援を必要としている子どもを早期発見し、対象者に応じたサポートの更なる構築を図り、子どもの可能性を広げられるよう取り組まれたい。

(4) 子ども食堂の運営について

- ①気軽に集える子ども中心の居場所づくりを定着、普及させるためにも、町としてサポートの更なる構築を図り、子ども食堂の活動を広げられるよう取り組まれたい。

(5) 小中一貫教育について

- ①本町の小中一貫教育を進めるうえで、コミュニティ・スクールと同様に児童生徒、教職員、保護者、地域住民等との熟議を大切にされたい。
- ②コミュニティ・スクールコーディネーター及び図書館司書等の人材の確保が重要であり、小学校区に社会教育指導員等の支援員を配置するなどの教職員以外の人材の発掘に努められたい。

5 次期教育民生常任委員会への申し送り事項等

- ①課題をある程度絞り、町内の実態調査を行った後、町外視察の実施を計画されたい。
- ②委員会が視察研修等で得た政策などについて、委員会提言として町と議論する場を検討されたい。
- ③持続的な課題解決のため定期的に評価を行い、必要に応じ改善策を講じられたい。

以上、次期、教育民生常任委員会の活動に対しては上記反省を生かし、より充実した活動を望むものである。

教育民生常任委員会委員

委員長	小川文子	副委員長	水本淳一
委員	高橋恵	委員	横澤駿一
委員	昆秀一	委員	谷上知子

令和5年度活動内容

○委員会開催：7回

- 第1回 5月15日（月）…今期の活動テーマ及び調査課題について
- 第2回 5月22日（月）…今期の活動テーマ及び調査課題について
- 第3回 6月14日（水）…5請願第1号の審査
- 第4回 6月28日（水）…所管課から主要事業のヒアリング
(福祉課、文化スポーツ課、学校教育課、学校給食共同調理場、健康長寿課、子ども課、煙山保育園)
- 第5回 7月10日（月）…今期の活動テーマ及び調査課題について
- 第6回 8月4日（金）…今期の活動テーマ及び調査課題について
- 第7回 10月6日（金）…所管事務調査について

○請願審査：1件

- ・5請願第1号：安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める請願
→ 審査結果：採択すべきものと決定した（令和5年6月15日請願審査報告書提出）

○所管事務調査

1 矢巾町立小学校視察

- ・研修テーマ：学校教育の現状と課題
- ・月 日：①令和5年8月29日（火） ②令和5年8月31日（木）
- ・訪問先：①徳田小学校 ②煙山小学校
- ・視察事項：児童の学校生活（授業風景等の見学）及び議会への要望事項（施設整備等）について

2 先進地視察研修（管外視察）

- ・研修テーマ：子どもから高齢者までしあわせに生きる環境整備
- ・月 日：令和5年10月31日（火）～令和5年11月2日（木）まで
- ・訪問先：①兵庫県相生市 ②大阪府門真市 ③奈良県葛城市
- ・視察事項：①子育て応援施策「11の鍵」について
②子どもの貧困対策事業について
③AIを活用した相談システムの構築「蓮花のAI相談室」について

所 感 等

○先進地視察研修

(1) 兵庫県相生市 子育て応援施策「11の鍵」について

【概要】

子育て・定住施策として様々な事業を展開しており、中でも特徴的な事業を「11の鍵」として実施し子育て応援都市宣言をしている。中でも高校生までの医療費無償化及び給食費の無料化が進んでおり、子どもに焦点を当てた施策を町づくりの中心に据えて取り組んでいる。また、兵庫県全体で同様な施策が取り組まれている。

【所感】

財政難の中でも子育て応援施策は可能であり、それにより定住促進効果が表れ、人口減少に歯止めをかけることができている。特殊出生率が1.59に増加したことも特徴的であった。本町の特殊出生率は県下でも低く、子どもに焦点を当てた施策により一層取り組むことが人口減少対策になると考える。

(2) 大阪府門真市 子どもの貧困対策事業について

【概要】

支援の必要な子どもがもれなく救われるよう、セーフティーネットの強化を目的に「子供の未来応援ネットワーク事業」を実施。子どもの未来応援団員の育成や子どもの未来応援チームを立ち上げ、子どもの貧困対策に力を入れている。

【所感】

子どもの健全育成に積極的なことが強く印象に残った。支援を必要としている人を早期発見し、対象者に応じたサポートの更なる構築を図り、子どもの可能性を今以上に広げられるよう、本町でも取り組まれない。

(3) 奈良県葛城市 AIを活用した相談システムの構築「蓮花のAI相談室」について

【概要】

GIGAスクール構想を活用して認知度100%のAIによる相談システムを構築。子どもたちが入力した情報をAIが感情分析し、隠れたリスクを早期発見するなど、先進的な事例に触れることができた。

【所感】

こども・若者サポートセンターは、福祉と教育が協働している組織で、教育委員会から独立し福祉的観点から設置され、多くの臨床心理士が在籍している。AI相談システムは中学校卒業後も継続利用でき、半永久的に寄り添えることから切れ目のない支援と関わりを可能にしていると感じた。本町でもこのような組織の設置が望まれる。

令和6年度活動内容

○委員会開催：13回

- 第1回 4月26日（金）…令和6年度活動計画等について
- 第2回 5月28日（火）…所管課に対する質問事項について
令和6年度の調査事項及び視察先等について
- 第3回 6月14日（金）…所管課に対する質問事項の回答及び今後の予定について
- 第4回 7月26日（金）…6請願第1号の取扱いについて
同日 【所管事務調査】町内保育園視察
未来保育園、矢巾町立煙山保育園
- 第5回 8月27日（火）…6請願第1号の審査
同日 【所管事務調査】町立小中学校視察
不動小学校、矢巾中学校、矢巾北中学校
9月24日（火）…【所管事務調査】町立小中学校視察
矢巾東小学校
- 第6回 10月30日（水）…所管事務調査の取りまとめ及び今後の活動について
- 第7回 12月4日（水）…所管事務調査及び調査事項の再検討について
- 第8回 1月14日（火）…6請願第3号の審査
同日 【所管事務調査】町内の子ども食堂の現状と課題
ここかむ食堂（コミュニティ食堂）の活動について
1月20日（月）…【所管事務調査】小中一貫教育について
大槌町立大槌学園視察
- 第9回 1月29日（水）…所管事務調査の取りまとめ
- 第10回 2月4日（火）…7請願第1号の取扱いについて
- 第11回 2月10日（月）…7請願第1号の審査
- 第12回 2月12日（水）…7請願第1号の審査
- 第13回 3月13日（木）…令和5・6年度活動報告の取りまとめについて
当初予算審査意見について

○請願審査：3件

- ・6請願第1号：ゆたかな学びの実現・教職員定数改善・義務教育費国庫負担制度負担率の引き上げをはかるための2025年度政府予算に係る意見書採択を求める請願
→ 審査結果：採択すべきものと決定した（令和6年9月3日請願審査報告書提出）
- ・6請願第3号：「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」の廃止及び実効性ある学校の働き方改革を求める意見書採択の請願
→ 審査結果：採択すべきものと決定した（令和7年1月29日請願審査報告書提出）

- ・ 7 請願第 1 号：矢巾町教育委員会及び町立学校等において岩手モデルを完全適用し遵守することを求める意見書の提出についての請願
→ 審査結果：不採択すべきものと決定した（令和 7 年 2 月 1 9 日請願審査報告書提出）

○所管事務調査：4 件

1 町内保育園視察

- ・ 研修テーマ：保育園の運営状況及び施設の現状と課題
- ・ 月 日：令和 6 年 7 月 2 6 日（金）
- ・ 訪 問 先：①未来保育園（小規模保育園） ②矢巾町立煙山保育園
- ・ 視 察 事 項：保育園の運営状況、休日保育・延長保育の状況、医療的ケア児及び園児の保育環境、施設及び備品の現況、給食の状況

2 町立小中学校視察

- ・ 研修テーマ：学校教育の現状と課題
- ・ 月 日：①令和 6 年 8 月 2 7 日（火） ②令和 6 年 9 月 2 4 日（火）
- ・ 訪 問 先：①不動小学校、矢巾中学校、矢巾北中学校 ②矢巾東小学校
- ・ 視 察 事 項：児童生徒の学校生活（授業風景等の見学）及び議会への要望事項（施設整備等）について

3 ここかむ食堂の現状と課題

- ・ 研修テーマ：矢巾町内の子ども食堂の現状と課題について
- ・ 月 日：令和 7 年 1 月 1 4 日（火）
- ・ 場 所：矢巾町役場 4 階 全員協議会室
- ・ 調 査 事 項：ここかむ食堂（コミュニティ食堂）の活動について
 - ・ ここかむ食堂の現状と課題について
 - ・ 議会への要望事項について
- ・ 説 明 者：矢巾町母子寡婦福祉協会 会長 高野 美恵子様
社会福祉法人矢巾町社会福祉協議会事務局長 佐藤 由子様

4 大槌町立大槌学園視察

- ・ 研修テーマ：小中一貫教育について
- ・ 月 日：令和 7 年 1 月 2 0 日（月）
- ・ 訪 問 先：大槌町立大槌学園
- ・ 視 察 事 項：小中一貫教育の導入の背景と経緯、施設の概要、小中一貫教育の取組及び特徴、これまでの成果と課題、今後の取組について

所 感 等

○所管事務調査

1 町内保育園視察

(1) 未来保育園（小規模保育園）

園児一人ひとりにきめ細やかな保育が実施できる環境であった。防犯カメラも設置されており、安全面にも配慮されていた。給食も栄養バランスのとれたメニューで、誤嚥等にも配慮し手作りされていた。

開設して間もないため課題等については特別なかったが、今後運営をしていく中で課題等が出てくると思われる。

【意見等】

町として小規模保育園の課題や状況等を把握し、情報提供や保育園長会議等への参加などの連携を検討されたい。

予算的な支援等についても協議できる環境を作られたい。

(2) 矢巾町立煙山保育園

医療的ケア児の対応については、看護師2人体制で行われていた。給食については、誤嚥がないよう調理されており残食もほとんどない状況であった。備品類については、点検等を行い状況に応じ修理しているが、使用困難なもの、老朽化しているものがあった。保育士の就労環境については、職員会議やミーティング、日々の職員への声掛けなど健康面・精神面のサポートに取り組まれていた。

課題としては、保育士・看護師の人手不足。備品類等の老朽化。休日保育の申請手続きが面倒である。

【意見等】

町として保育士・看護師の人手不足の解消に積極的に取り組まれたい。また、備品類等の老朽化しているものについては、適正な時期の更新を検討し、引き続き安全面に十分配慮されたい。休日保育について、利用しやすい環境の整備(申請等)を検討されたい。

2 町立小中学校視察

(1) 不動小学校

不動小学校は、昭和50年の新校舎建設から半世紀が経過し、校舎の老朽化が進んでいる。それにより、体育館に繋がる渡り廊下のあたりなど多くの個所で雨漏りが発生している。現場を見学したが、特に利用頻度の少ない屋上出入り口付近の雨漏りが激しく、雨水が流れ落ちないようにタオルを敷くなどの応急措置がされていた。また、窓枠部分の劣化も進んでいた。

同校の全校児童数は現在165名で、各学年とも1学級(児童数25~28名)編成で特別支援学級も2学級あるが、来年度の入学者数は20名を割るようである。

授業の様子は、きめ細やかな指導が行われており、授業態度も良好であると感じた。

【意見等】

老朽化に伴い、適宜補修し安全面に配慮されたい。

(2) 矢巾中学校

矢巾中学校は、平成 23 年に白沢地区に新築移転して 13 年経過しているが比較的新しく、校舎について修繕等の問題はないようである。

授業の様子は、タブレットや電子黒板などの ICT を活用したわかりやすい授業が行われていた。また、小ホール（南昌ホール）などの施設も備えており、十分な学習環境が整備されていた。授業態度については、各クラスともとても良好であると感じた。

(3) 矢巾北中学校

矢巾北中学校は、平成 8 年に矢巾中学校から分離して 28 年が経過しており、それとともに改修しなければならない箇所も多く見受けられるようになってきている。また、校舎西側の外の渡り廊下屋根には雪止めがなく、落雪による事故防止のため冬はコーンを置いて通行を制限している。

授業の様子は、矢巾中学校と同様、ICT を活用したわかりやすい授業が行われており、十分な学習環境が整備されていた。授業態度については、各クラスともとても良好であると感じた。

【意見等】

2階渡り廊下（徳丹城）屋根雪止めの設置について、安全面に配慮し早急に検討されたい。また、経年劣化等に伴う修繕が必要な箇所については、優先順位をつけ対応願いたい。

(4) 矢巾東小学校

矢巾東小学校は、平成 16 年に新設され、校舎は建築から 21 年目で新しく、水道施設の一部補修はあるものの、特に大きな修繕を要する箇所はない。良質な木材が多用され、廊下等にゆとりのある空間があり良好な学習環境が整っていると感じられた。

授業の様子は、真剣に学習に取り組んでいたが、授業中に立って歩くなどの児童も見受けられた。また、知的、弱視等の特別支援のクラスが増えている状況であった。

【意見等】

発達障害やそれぞれの子どもたちの特性に対応するための教室の確保及び体制づくりについて検討されたい。また、熱中症対策のために、校庭に木を植えるなど緑の校外環境の整備について取り組まされたい。

◆中学校 2 校共通事項

【意見等】

電子黒板が有効活用されていたので、今後も ICT を活用したわかりやすい授業の充実を図られたい。また、部活動の地域移行などにより生徒の望む種目や活動ができる環境整備を望む。

◆全校共通

【意見等】

教職員の健全な労務環境を確保されたい。

3 ここかむ食堂の現状と課題

【現 状】

①屋ここかむ食堂は、毎月 1 回開催し誰でも利用できる。参加者は毎回 30 人～40 人程（親子は最大 18 組）である。

②夜ここかむ食堂は、毎月2回開催し、ひとり親世帯のみを対象としている。お弁当50個～60個程提供している。

③児童館ここかむ食堂は、年3回土曜日に開催している。

開催場所は、①②は現在さわやかハウスで、③は児童館3か所で開催している。

協賛金は、①②は子ども（学生まで）無料で大人300円、③は子ども100円となっている。

運営費は、主なものは母子寡婦福祉協会の運営費（会計）より支出しており、ほかに食材等の寄附、赤い羽根共同募金からの助成等で賄っている。

母子寡婦協会会員、企業、学生、障がい者支援施設職員等の方々が、毎回8人～10人程ボランティアとして協力している。また、ボランティアは無償となっており、食事をする場合は協賛金をいただいている。

ボランティア保険は母子寡婦福祉協会で負担し加入している。

【課題等】

安定的な資金確保が難しく、ボランティアの人手不足が深刻で、これにより、継続的な運営が困難になる可能性がある。また、利用者のニーズに応じた開催日、開催時間の設定も求められている。

【意見等】

子ども食堂がより良い居場所となるためには、ボランティアを増やすことが不可欠で、地域住民の理解と協力を得るための広報活動も必要であり、また、行政や企業との連携を強化し、資金面での支援を受けることも重要である。

さらに活動拠点として、土日など町保健福祉交流センター（さわやかハウス）を活用することで、協力者の移動、搬入搬出の負担を抑え、かつ、子どもたちが自由に使える安心して過ごせる環境を整えることが最優先と考える。気軽に集える子ども中心の居場所づくりを定着、普及させるためにも、町としてサポートの更なる構築を図り、子ども食堂の活動を今以上に広げられるよう取り組まれない。

4 大槌町立大槌学園視察

【概要】

○小中一貫教育学校、大槌学園の開校

- ・平成28年4月1日より大槌町立大槌学園小中一貫義務教育学校開校
- ・前期（小学部）約400名、後期（中学部）約200名
- ・総事業費 約100億円 ※国費含む

○小中一貫教育

小中一貫教育の導入に向け、平成24年から検討委員会が本格的に議論を行い、「課題点を共有」、「必要感を共有」、「当事者意識を高める」の3項目をポイントに熟議を重ねた。小中一貫教育の導入前と後のデメリットは無く、推進のうえで最大のポイントは、子どもたちのためにやりきる覚悟とのことであった。

○大槌の教育の取組及び、特色

「教育」「ふるさと」「地域」とつなげる・広げる教育を目指し、「0～18歳を貫く教育」、「ふるさと科」、「コミュニティ・スクール」の3つの柱を掲げている。それに伴い、

「大槌町子供の学び基本条例」を平成31年6月に制定。主なポイントは、①0～18歳までの適切かつ一貫した教育支援、②子供の主体性に基づく社会参画・探求活動という理念、③防災学習、④多様な主体との協働による学びの保障。特に、「つなぐ」ことに力を入れており、学校内に地域協働本部があり、職員が常駐し地域と学校をつなぐ役目を担っている。また、コミュニティ・スクールコーディネーターを配置し、ふるさと科授業における学園と地域との橋渡しなどを担っている。

○小中一貫教育の効果と成果

- ・自尊感情の形成がより豊かになった。小中学生の交流が日常となるため、問題行動が無くなった。
- ・自主性・協働性の伸長が図られている。中学生活を知ったり、部活動の決定が早まったりと、スムーズにステップアップしている。
- ・教職員の協働により教職員のスキルアップが図られている。全ての教職員が9年生のゴールに向かい授業を行うので、授業設計など、小中の先生がアイデアを出し合いながら進めることができている。

これらの効果の成果として、平均学力が上がり、生活アンケートにおいても肯定的な回答が9割を超えている。

○けやき共育

0～18歳までの全ての子どもを対象に、特別ニーズ教育の視点で支援することで、目指す子どもの姿、誰一人取り残さない学びの保障の実現を目指すもの。支援員を町の予算で10名配置している。何らかの特性があるお子さんや、学校に行きづらい子どもの割合は年々増加傾向である。現在は大槌町内の子どもたちの3割ほど。

教育委員会が主となり専門チームを立ち上げている。相談チーム、特別支援教育チーム、就学支援チーム、の三つの専門分野に別れている。

事業内容は、多様な学びの場の選択として様々な場所を確保している。

【意見等】

- ・本町の小中一貫教育を進めるうえで、コミュニティ・スクールと同様に児童生徒、教職員、保護者、地域住民等との熟議を大切にされたい。
- ・コミュニティ・スクールコーディネーター及び図書館司書等の人材の確保が重要と感じた。小学校区に社会教育指導員等の支援員を配置するなどの教職員以外の人材の発掘に努められたい。